

# シリーズ

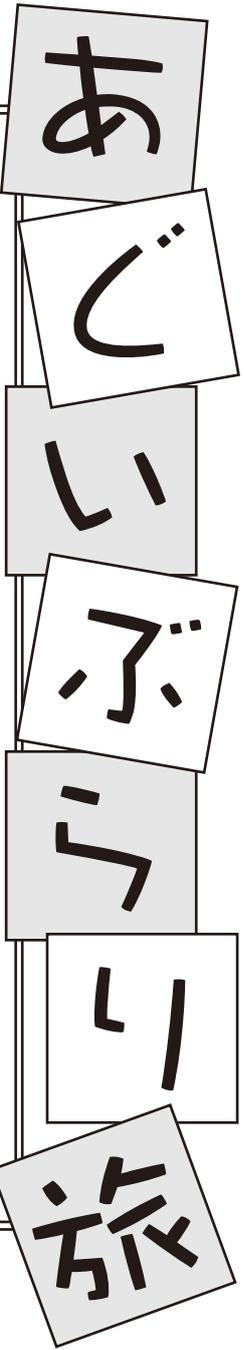
## 阿久比を歩く ⑨②



ネットに上り遊ぶ女の子たち

二〇〇九年のぶらり旅を開始。今年最初は南部小学校周辺からスタートを切る。  
小学校はまだ冬休み。誰もいないかと思いきや、子どもたちが東の校門から学校へ入っていくのが見える。正月も早や五日を過ぎ、家で遊ぶのもそろそろ飽きるころ。子どもたちも学校で思いつきり、走り回りたくなったにちがいない。  
運動場で遊ぶのは五年生。男の子

### 施設かいわいを行く(南部小学校)



はサッカーボールをけり、女の子は遊具で遊ぶ。

「うちの学校はサッカーゴールの数が阿久比で一番多いよ」と男の子が得意げに話す。数えてみると六つ。言われてみるまで分からなかったが確かに多い。

少年たちに「将来の夢は」と尋ねると、四人中三人が「サッカー選手」。サッカー選手を夢見る子どもたちは、力強くゴール目掛けてシュートを放つ。けつた後に体が宙に浮く姿は、かつこいい。話を聞けば、正月も学校に来てボールをけつていたと言う。サッカーゴールが多い恵まれた環境。何本も何本もシュートの練習をして、世界で活躍できるプレイヤーに成長してもらいたい。

運動場西の遊具で遊ぶ女の子たちも元気がいい。ロープで組まれた遊具に駆け上り、高い場所から私たちに、大きなクスノキを指差して「おじさん、あそこにトリの巣があるよ」と教えてくれる。トリの姿は確認できなかったが、子どもたちにとって



サッカーを楽しむ男の子たち

は自慢の「トリの巣」のようだ。「あの岩石園の岩の中には「化石」があるんだよ。それからね……」。学校の中を紹介してくれる子供たちの話は尽きない。

校門を出て、学校の周りを歩く。年末年始の暴飲暴食で、私も友人も動きが鈍い。「今年は急がず、ゆっくり牛歩で進みましょうよ」。君、新年早々丑年にちなみ、うまいこと言うじゃない。「そうですね。僕に届いた年賀状に似たような言葉が書いてあったので、パクッて言ってみました」と友人が頭をかかす。「新年だから、得意の句でも一首詠んでみたら」。……「ごめんなさい。今年は何も浮かびません」。「それなら僕が一つ 丑年も モーレッツに歩む ぶらり旅 (字余り)」。